

# 令和3年度すくすくウオッチの分析

河内長野市立天見小学校

国語

## 【学力の概況】

正答率について

- ・全体は、大阪（81.6）を非常に大きく上まわっている。
- ・領域別 全ての領域で府平均を非常に大きく上回っている
- ・観点別 全ての観点で府平均を非常に大きく上回っている。

## 特に良かった点

- ・全20問中18問で正答率が、大阪府平均を上回っている。

正答率100%の間が6問

- |                       |        |        |
|-----------------------|--------|--------|
| ・対義語の間【箱は軽い⇒（重い）】     | 本校100% | 府95.6% |
| 【ねだんが高い⇒（安い）】         | 本校100% | 府94.0% |
| ・指示語が何を指すかの問（2問出題）    | 本校100% | 府94.7% |
|                       | 本校100% | 府94.3% |
| ・1文の内容を2文に分けて書く       | 本校100% | 府92.9% |
| ・相手や目的に応じて、適切な言葉に書き直す | 本校100% | 府77.5% |
| ・別の表現の同義の文を選択する       | 本校100% | 府80.8% |

## 特に課題が見られた点

記述式

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、条件を一つ書いていないなどのミスがあった。

- ・目的や意図に応じて理由を明確にしながら自分の考えを書く問題では、理由を書いていないという間違いであった。



**【学力の概況】**

正答率について

- ・全体は、大阪（48.5%）を非常に大きく上まわっている。
- ・領域別 全ての領域で府平均を非常に大きく上回っている
- ・観点別 全ての観点で府平均を非常に大きく上回っている

**特に良かった点**

- ・全7問で正答率が、大阪府平均を上回っている。
- ・1（4）の記述問題の正答率は、本校46.7% 府20.6%と非常に高い。

**特に課題が見られた点**

- ・2（3）の記述問題の正答率は、本校46.7% 府43.4%であり、府平均との差が小さい。

**算数の学習を進めるにあたって**

ほぼ全ての領域、全ての観点において、府平均を大きく上回っており、これまでの指導の成果が表れている。

しかし、データの活用領域においては、本校46.7%、府43.4%と、府平均との差が他の領域と比較して小さいので、グラフ、表などの読み取りの指導についてより工夫する必要があると思われる。

また、記述問題においては、問題の難易度が大きく異なるのにかかわらず、本校の正答率は、全く同じであった。これは、問題の難易度に関わらず、記述問題ができる児童と、出来ない児童の2極化が進んでいることが考えられる。各児童の到達度の把握とともに、より個に応じた指導を進める必要がある。

**【学力の概況】**

正答率について

- ・全体は、大阪（49.2）を非常に大きく上回っている。
- ・領域別 全ての領域で府平均を大きく上回っているが、領域ごとの差が激しい。
- ・観点別 全ての観点で府平均を非常に大きく上回っている

**特に良かった点**

- ・全10問中7問で正答率が、大阪府平均を上回っている。

方位磁石、太陽の動き、電気に関する単元の問の正答率は非常に高く、よく理解できている、

**特に課題が見られた点**

- ・日なたの地面の温度のはかり方についての問の正答率が、理科はもちろんのこと、国語、算数の各問と比べても、その低さが著しい。本校26.7% 府51.4%
- ・また、太陽の動き等から、3地点の地面の温度変化のグラフの組み合わせを選ぶ問の正答率も全国平均を下回っている。本校26.7% 府27.6%

**算数の学習を進めるにあたって**

授業の理解度が如実に結果として表れてしまっている可能性が高いと考えられる。

学習したことは、確実に定着している児童が多いと考えられるため、教科書の内容をより確実に指導すれば、結果は改善されることが考えられる。さらに、実験・観察等意識する際は、やり方だけを教えるのではなく、「なぜそのようにするのか、どこに注意して見るのか」などを子どもに意識させながら授業を展開する必要がある。

### 【学力の概況】

正答率について

- ・本校は、大阪（65.1）を非常に大きく上まわり府下トップクラスである。
- ・観点別 全ての観点で府平均を非常に大きく上回っている
- ・問題をとらえる 全ての区分で府平均を非常に大きく上回っている
- ・伝える 全ての区分で府平均を非常に大きく上回っている

### 特に良かった点

全10問中8問で府平均正答率を上回っている

### 特に課題が見られた点

2（1）の問い 本校10.5% 府12.5%

資料で与えられている2つの情報を適切に読み取る問

3（1）の問い 本校42.1% 府48.3%

示された内容を関連付けて正しく捉え、自分の考えを持ち伝える問

### 算数の学習を進めるにあたって

2問とも、短い文章や会話文等に示された内容を関連付けて正しく捉えられるかを問われた問題である。

1（1）の、図や表に示された内容を関連付けて正しく捉えられるかを問われた問では、本校63.2% 府41.2%であるので、図表の情報を関連づけてとらえることはできるが、情報が文章になると、正しく読み取れていないことがうかがわれる。

文章をどれだけ内容理解できるか、日ごろの国語以外でも読書の必要性を感じる。

## 児童質問紙から

本校では、児童数が少ないため、分析した結果・傾向が、信憑性に欠ける部分がありますが、一つの参考として傾向を見ていく必要もあります。分析結果がすべてではありません。

### 生活習慣に関する事

- 「家の人とその日の出来事について話をしている」でよい傾向が見られた。  
が「家の人に褒められることがある」では、若干低い傾向が見られた。
- 朝食もしっかり取っている。
- 寝る時刻、9時から11時までが多数で、生活リズムが作られている。

家庭でコミュニケーションは取れているが、褒められることが少ない、もしくは、本人が褒められた事を感じていない事が伺える。生活習慣は、しっかりできている。

### 勉強に関する事

- 授業で「コンピューターやタブレットを使って自分の考えやまとめたりする」「インターネットで必要な情報を調べる」が高く、GIGA スクール構想にマッチしながら授業をおこなっている。「話し合う場面で自分の考えを深めたり広げたりする」が低く対話的な学習の必要性を感じる。

### 自分自身に関する事

- 「自分によいところがあると思いますか」で低い傾向が見られた。
- 「始めたことは、何がなんでも最後までやりきる」「難しい事があってもあきらめない」の項目では、低い傾向がみられた。  
意欲・チャレンジ面での課題が伺える。  
自尊感情を今まで以上に高めてあげる必要性を感じた。
- 「悩んでいる友達がいても、その友達と一緒に悩むことができない」

「常に相手の気持ちを考えるようにしている」の項目が少し低い傾向がある事から、友達関係が若干希薄になりがちなのかもしれない。また「自分の気持ちを態度や表情に出さない」が高く、「違う意見を認め合っている」が低いことから、その傾向が出てきていると思われる。

## まとめ・・・全体を通して

本校の児童は、国語・算数ともに、大阪と全国の平均を上回る結果となっています。読み・書き・計算という土台を構築することは、もちろんのこと、今言われている活用する力また思考力・表現力といった資質能力を高めていく事が求められています。そのために、学校としては基礎的な学力の定着を、より一層図っていくとともに自分の考えを文章で表し、表現する活動を続けて取り組んでまいります。

学校だけでなく、地域の交流やご家庭での興味・関心を深められる自学自習をより一層深めていってほしいと考えています。

## 調査結果を受けて

### 学校が重点的に取り組んでいくこと

- 学習の土台となる知識や計算力の定着は、今後もしっかりと身に付けさせます。
- 生活作文を通して、書く力を高めていきます。
- 多様な問題に取り組ませ、応用力もつけていきます。
- 単に問いを解くだけでなく、説明する力を授業の中で育みます。

### 児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

#### ○読書は新たな世界の発見

小説、図鑑、伝記、時事問題、趣味など色々な分野の本を読むようにしましょう。本には自分も大人も知らないことがたくさん書いています。読み終わったときに見える世界が変わるような本に、出会いに行きましょう。そしてそのことを誰かに伝えましょう！

#### ○新聞やニュースを見て自分の考えを持とう

新聞は、見出しだけをさらっと読むのも一つの読み方です。気になる記事は詳しく読みましょう。テレビやインターネットのニュースでもいいので、その記事や出来事について、自分の考えを持つクセをつけましょう。そしてその考えを誰かに伝えよう！

#### ○家庭学習は自分の力を伸ばすチャンスタイム

家庭学習は、自分の力を伸ばすチャンスタイムです。自分のペースで、自分の好きなこと、苦手なことを自分のやり方で勉強できる貴重な時間です。こっそりしてもいいし、だれかに伝えてもいいです。

## 保護者のみなさまに協力してほしいこと

- お子様の「なんで？」にできるだけ寄り添ってあげてください。わからないことや、答えられないことは、調べる方法を教えたり、一緒に考えたりしてあげてください。
- 学習への意欲は、子どもの自己肯定感と大きな関係があります。友だちや兄弟姉妹と比較することは自己肯定感を傷つける場合があります、意欲を低下させることがあります。子ども個人の成長を認め、子どもそれぞれの課題を意識させることで、学習意欲が高まります。
- 学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にしていただきますようよろしくお願いいたします。